

GLORY writes a new STORY



グローリー株式会社 2027年3月期 第1四半期 決算説明資料

2026年8月7日

【説明者】

- ・代表取締役社長 原田 明浩
- ・取締役 IR担当役員 藤田 知子

1

・決算ダイジェスト

代表取締役社長 原田 明浩

2

・2027年3月期 第1四半期 実績 ・2027年3月期予想の概要

取締役 IR担当 藤田 知子

[注意事項]

1. 本資料に記載されている、業績見通し等の将来に関する情報は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。そのような要因としては、主要市場の経済状況及び製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。また、本資料の将来の見通しに関する記述につきましては、法律上その手続きが必要となる場合を除き、事前予告なく変更することもありますので、ご了承ください。
2. 当資料の構成比は、千万円以下を切り捨てた数値を基に算出しております。
なお、増減率につきましては、決算短信と統一しております。



1 | 決算ダイジェスト

代表取締役社長 原田 明浩

「2027年3月期 第1四半期 決算ダイジェスト」

説明者：代表取締役社長 原田 明浩

2027年3月期 第1四半期 決算ダイジェスト

GLORY

2027年3月期 第1四半期 連結業績 結果 → 増収増益

(億円)

	売上収益	前年同期比		営業利益	前年同期比		親会社の所有者に帰属する 四半期利益	前年同期比	
IFRS (国際会計基準)	805	+83	+11.6%	48	+16	+49.8%	34	+19	+125.3%

- 前年同期と比べ**増収増益**
- **海外市場**は、売上収益、営業利益とも**順調に推移**
- **国内市場**は、金融、流通・交通の販売は**回復基調**

2027年3月期 通期 連結業績 予想 → 変更なし (2026年5月15日の通期決算発表の公表値から変更なし)

(億円)

	売上収益	前期比		営業利益	前期比		親会社の所有者に帰属する 当期利益	前期比	
IFRS (国際会計基準)	3,600	+205	+6.0%	320	+23	+7.6%	200	+47	+30.0%

- **海外市場**は、製品・サービスの販売拡大により、**さらなる成長を見込む**
- **国内市場**は、金融、流通・交通を中心に特別需要の反動減から**業績回復を見込む**

決算ダイジェスト

FY2026 1Q業績及びFY2026予想

データセクション

4

「2027年3月期 第1四半期 決算ダイジェスト」

(画面上段) 2027年3月期 第1四半期は増収増益

- ・売上収益 805億円 (前年同期比+11.6%)
- ・営業利益 48億円 (前年同期比+49.8%)
- ・親会社の所有者に帰属する四半期利益 34億円 (前年同期比+125.3%)

海外は売上収益、営業利益ともに順調に推移

国内は金融、流通・交通の販売は回復基調に入る

(画面下段) 2027年3月期予想は増収増益

- ・売上収益 3,600億円 (前期比+6.0%)
- ・営業利益 320億円 (前期比+7.6%)
- ・当期利益 200億円 (前期比+30.0%)

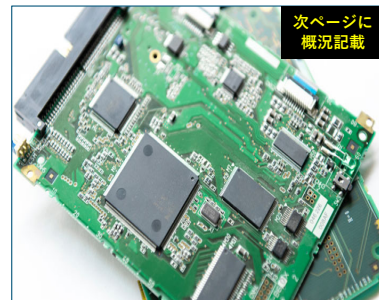
2026年5月15日の公表値から変更なし

半導体関連 部品入手難による業績への影響

GLORY

入手困難部品

入手難 × : メモリ、ストレージ、CPU、プリント基板、チップ抵抗、ハーネス等
解消 ○ : ナフサ関連であるシンナー、樹脂材料、ベルト、ナイロン等



① 部品価格上昇によるコスト影響

●今年度の部品価格上昇影響（現時点予想）≒ **約12億円/年のコストアップ**

売上収益に対して▲0.3%、営業利益に対して▲3.7%

部品価格上昇による業績への影響は7月以降に発生

●価格アップ率の一例（2025年11月比較）--- 価格アップも予断を許さない状況

ストレージ/SSD	メモリ	DRAM	素基板	PCBA部品
2～3倍	時価(10倍～)	5～10倍	2倍	数十%

② 部品入手難による生産/販売への影響

●顧客の要求日程に対し、一部機種で生産遅延・販売/納入遅延が発生
上期の販売影響額 ≒ **約12億円 → 第2四半期以降に販売/納入が延伸**

年間業績予想

部品入手難による影響（コスト・納期）はあるものの、第1四半期の業績結果、及び今後の調達見通し、為替影響などを総合的に勘案し、**通期の連結業績予想は据え置いております**

決算ダイジェスト

FY2026 1Q業績及びFY2026予想

データセクション

5

「半導体関連 部品入手難による業績への影響」

半導体関連の部品入手難が継続し、業績への影響が見えてきた

入手難部品 : メモリ、ストレージ、CPU、プリント基板、チップ抵抗、ハーネス等（画面右上の画像参照）

入手難解消部品 : ナフサ関連であるシンナー、樹脂材料、ベルト、ナイロン等

① 部品価格上昇によるコスト影響

現時点で今期の購入予想金額に対して、年間で約12億円程度のコストアップが予想される

（売上収益で約0.3%、営業利益で約3.7%の影響）

第2四半期（7月）以降、影響が出てくる見通し

特にメモリ関係は時価となることもあるが、年間の生産枠を押さえてもらうために確定注文を打つ状況。今後も価格アップは予断を許さない状況

② 部品入手難による生産/販売への影響

上期の計画や、お客様への納入日程に対しては、残念ながら一部で生産遅延や販売納入遅延が発生

上期の販売影響額が約12億円分、販売計画が落ちて、第2四半期以降、納入が延伸する見通し

年間業績予想

第1四半期の業績が想定よりも良かったこと、今後の調達見通しがまだ確定していないこと、為替影響等、総合的に勘案し、通期の連結業績予想は据え置き

（ご参考情報）半導体関連部品の市場状況

GLORY

AI需要増により、半導体やPCB基材が急激に不足の状況へ変化

メモリ、ストレージ、CPU、プリント基板などの入手納期が軒並み長期化、供給制約、そしてコストアップ

- ・AI需要増でPCB基材が不足し、納期長期化と価格上昇が進行。
- ・AI用の高性能基材に需要が集中。それが汎用品まで波及し、PCや部材などの原価を圧迫。
- ・メモリー高騰や地政学リスクも重なり、供給網全体が不安定化。

AIインフラ投資が押し上げてきたのは、CPUやサーバー向けSSDの需要だけではない。調達現場では、その圧力がプリント基板（PCB）と基材にまで及び、**納期の長期化と価格上昇が同時に進み始めている**。半導体不足の次は、素基板を形成する銅張積層板（CCL）やガラス繊維クロス、銅箔といった材料層の供給が詰まってくるという予測。いま起きているのは一時的な需給の乱れではなく、AIサーバー向け高多層PCBの増加が、PCB基板材料の生産配分そのものを書き換え始めたという事実。

高ガラス転移材や低誘電率材のような高性能基材に需要が集中し、その影響が標準材やPC向け製品の生産へ広がり、さらにメモリー価格の急騰、物流費やエネルギー費の上昇が重なり、PCや周辺機器の原価全体を押し上げる構図になってきた。

PCB基板の製造に使う基材の供給はここ数カ月で大きく変化。PCB基板材料が不足した場合は、製造工程そのものが止まりやすくしかもPCBは、サーバー、PC、通信機器、電源機器まで広く使われるため影響範囲が大きい。一部サプライヤーでは割当制度も始まった。前年同期比で、先端材料で10～15%の値上り、基材の一部セグメントで20～30%の上昇、DRAMは60%上昇、NANDフラッシュ75%上昇問題は値上がりだけではない。必要な時期に必要な量を確保できるかどうか、調達の成否を左右する段階に入っている。需要を引っ張っているのはAIサーバー向け高多層PCBであり、汎用品のように短期間で大きく増産しにくいいため、需要が一段高い領域へ偏り、供給側は目詰まり。これらにより、**多くのPCB工場でリードタイムが6カ月から1年以上へ**。背景には、DRAMメーカーがHBMやサーバー向けへ生産能力を再配分し、NANDでもAIサーバーとデータセンター向け需要が価格全体を押し上げている事情がある。

販売価格への転嫁、製品構成の調整、あるいは利益率の圧縮のいずれかを迫られる局面に入りつつある。

出典：XenoSpectrum「メモリ、ストレージ、CPUの次はプリント基板の価格上昇か：6カ月納期が示す供給制約の次段階」を基に当社作成

決算ダイジェスト

FY2026 1Q業績及びFY2026予想

データセクション

6

「（ご参考情報）半導体関連部品の市場状況」

AI需要が非常に高まり、データセンターの建設等が相次いでいることから、半導体とかPCB基板の材料が急速に不足状況になってきている

赤字で書いてある部材が入手困難となり、納期も延びている。また、供給制約が出たり、コストアップになっている。

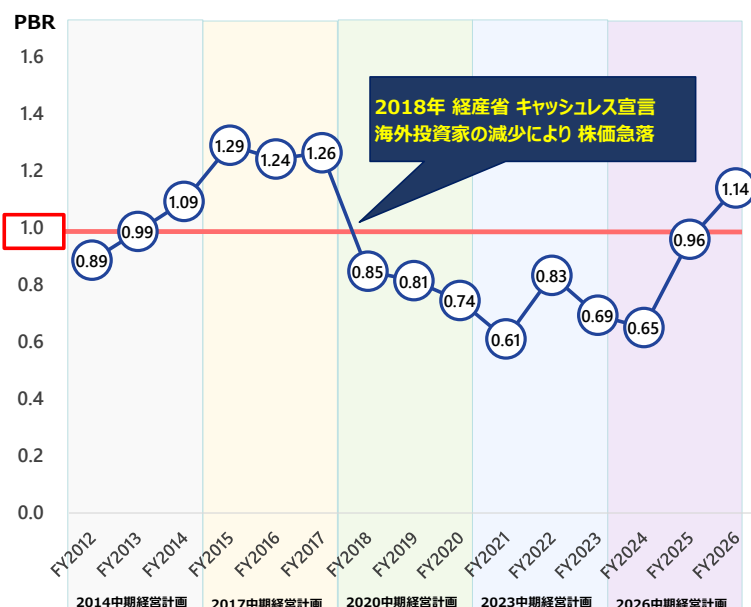
（まとめ）

- ・AI需要増でPCB基材が不足し、納期長期化と価格上昇が進行
- ・AI用の高性能基材に需要が集中。それが汎用品まで波及し、PCや部材などの原価を圧迫
- ・メモリー高騰や地政学リスクも重なり、供給網全体が不安定化

海外ノンディール・ロードショー実施

GLORY

当社PBRの推移



海外事業が大きく成長

- ① 海外事業の拡大
- ② グローバル レベルの大手顧客の獲得
- ③ IFRS移行 （海外競合他社と比較可能）

これらによって海外市場における当社のプレゼンスが向上した今、グローバル資本市場との対話を強化



海外投資家との対話を本格化

2026年7月：ニューヨーク 9件 投資家と面談
ロンドン 10件 投資家と面談
2026年9月：香港 (面談予定)
シンガポール (面談予定)

今後も対話を継続

決算ダイジェスト

FY2026 1Q業績及びFY2026予想

データセクション

7

「海外ノンディール・ロードショー実施」

（左側グラフ） 当社PBRの推移

2018年に経済産業省が「キャッシュレス・ビジョン」を公表したと同時に、海外投資家が当社株式を売却して、株価が急落

その後、海外事業が非常に大きく成長し、グローバルレベルのお客様が獲得でき、更に会計基準のIFRSに移行により、海外競合他社との比較も可能となった。

海外市場における当社のプレゼンスが向上したことから、グローバル資本市場との対話を強化

7月には、ニューヨークで9件、ロンドンで10件、投資家の方々と面談。また、9月には香港、シンガポールでも面談予定。今後も対話を継続して行く

2 | 2027年3月期 第1四半期実績 及び 2027年3月期予想の概要

取締役 IR担当 藤田 知子

「2027年3月期 第1四半期実績及び2027年3月期予想の概要」

説明者：取締役 IR担当役員 藤田 知子

金 融		・ プラス金利を背景に金融機関の業績は好調であり、設備投資意欲が高い。 ・ 人手不足から業務効率化・厳正化のニーズが強く、現金処理機・非現金製品ともに、需要が旺盛である。
流通・交通		・ フロント向けについては、セルフ化需要が旺盛で、レジつり銭機、セルフオーダーキオスクなどの需要が拡大している。 ・ バックオフィス向けについては、現金管理の効率化の需要が旺盛で、入出金機の需要が拡大している。
遊 技		・ スマート遊技機の導入スピードが鈍化しつつあることから、関連機器への需要が減速している。
海 外	米 州	中米地域において、現金管理の厳正化等のニーズが高まっている。
	欧 州	リテール市場において、引き続き需要が継続している。
	ア ジ ア	リテール市場において、製品に対する需要が出て来ている。

決算ダイジェスト

FY2026 1Q業績及びFY2026予想

データセクション

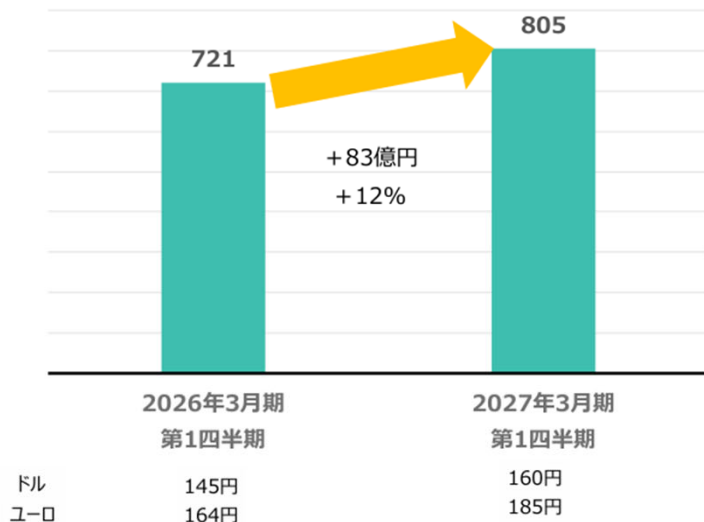
9

「直近の市場動向」

前回報告した5月以降、市場動向には特に大きな変化はない
引き続き人手不足などから、業務効率化のニーズが強い状況

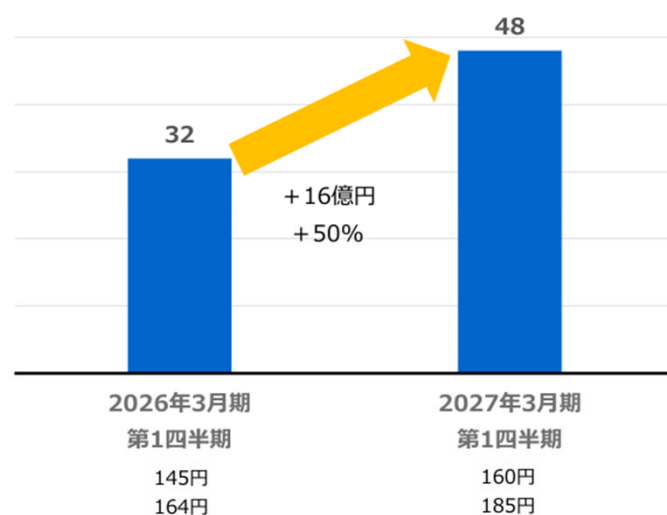
売上収益

(億円)



営業利益

(億円)



全般的に市場の需要は堅調、円安も追い風に。

「連結概要」

左側グラフ) 売上収益

・売上収益 **805億円**（前年同期比+83億円）

全般的に、引き続き人件費の高騰や人手不足に対応するべく、事業効率化のニーズが強く、グローリーのソリューションに対する需要は堅調。また、海外で円安が追い風

右側グラフ) 営業利益

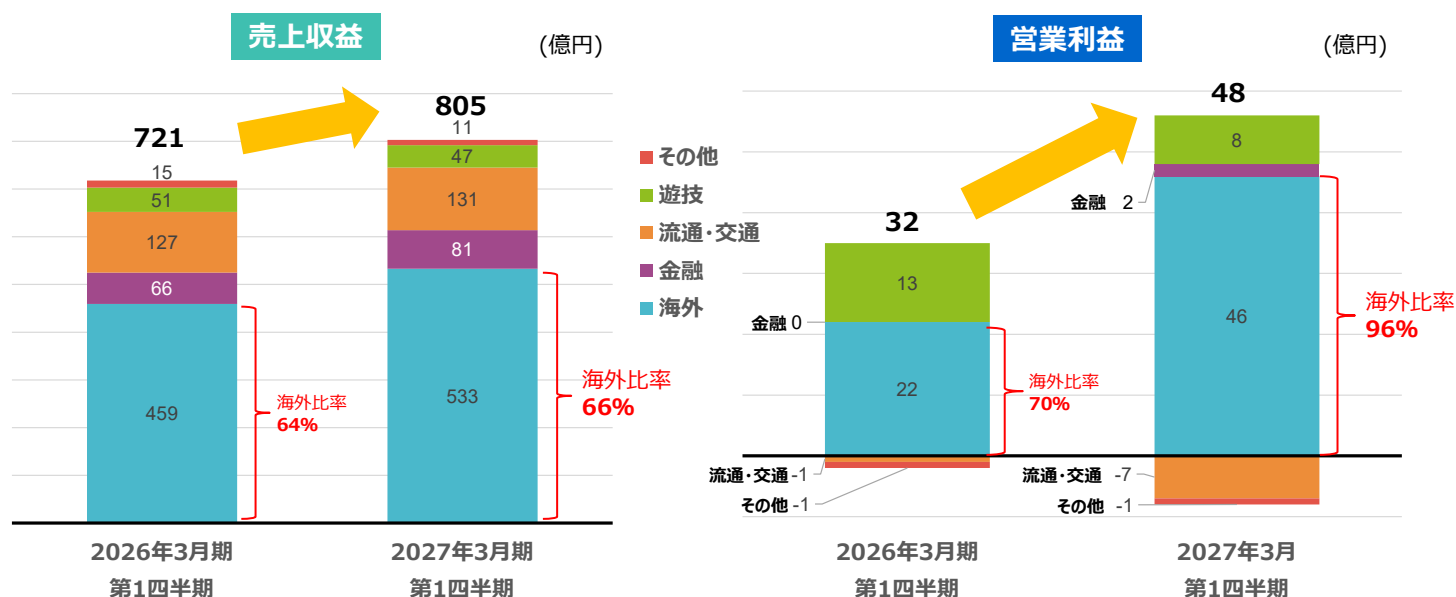
・営業利益 **48億円**（前年同期比+16億円）

売上収益の動きを反映

2027年3月期 第1四半期 セグメント別貢献度

[IFRS]

GLORY



海外では販売堅調・円安効果があった一方、国内では一部販売延伸もあったため
海外の貢献度が大幅に増加

決算ダイジェスト

FY2026 1Q業績及びFY2026予想

データセクション

11

「セグメント別貢献度」

特に水色の海外セグメントの販売は好調。円安もポジティブに働く

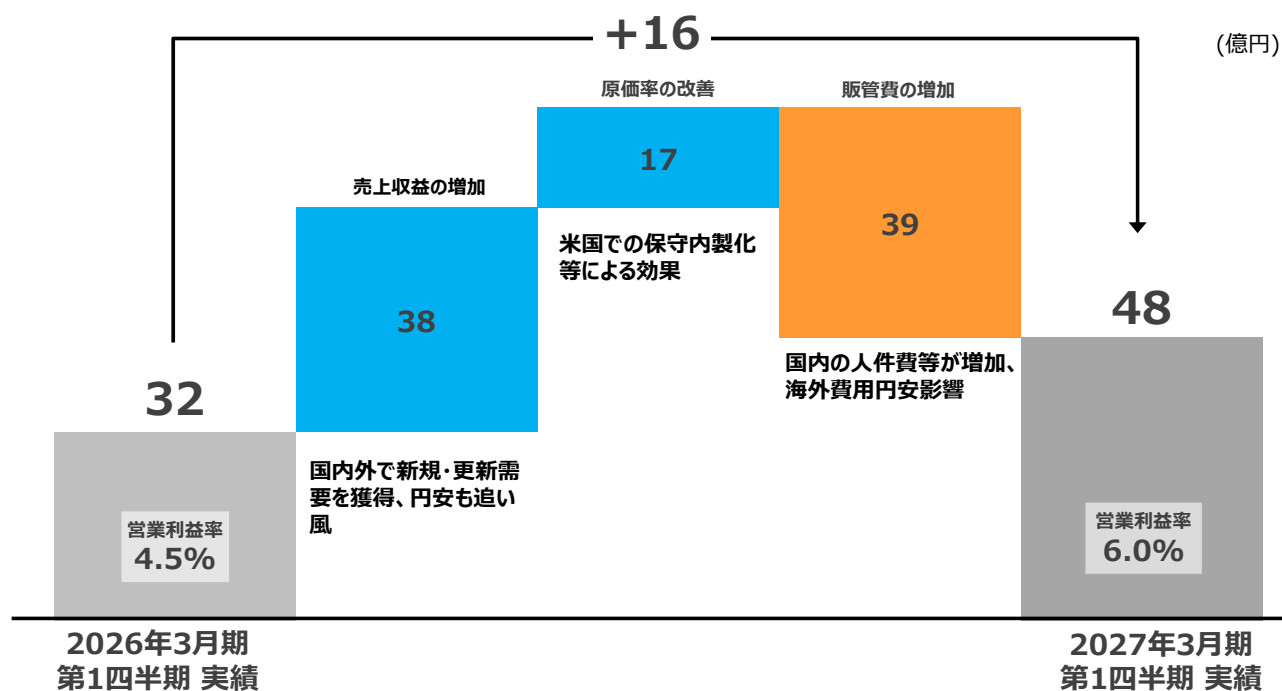
一方、日本国内では一部販売の延伸が発生したことから、海外セグメントの占める割合、貢献度が増加。

売上収益で66%、営業利益で96%を占有

2027年3月期 第1四半期 営業利益 増減要因

[IFRS]

GLORY



決算ダイジェスト

FY2026 1Q業績及びFY2026予想

データセクション

12

「営業利益 増減要因」

売上収益の増加

国内では新紙幣発行に伴う需要剥落から回復基調。また、海外では需要も堅調で、円安の影響などもあり売上が増加した結果、営業利益が38億円増加

原価率の改善

米国における保守事業の内製化が昨年度中に完了したことにより、利益率が向上した結果、原価率が下がり、営業利益が17億円増加

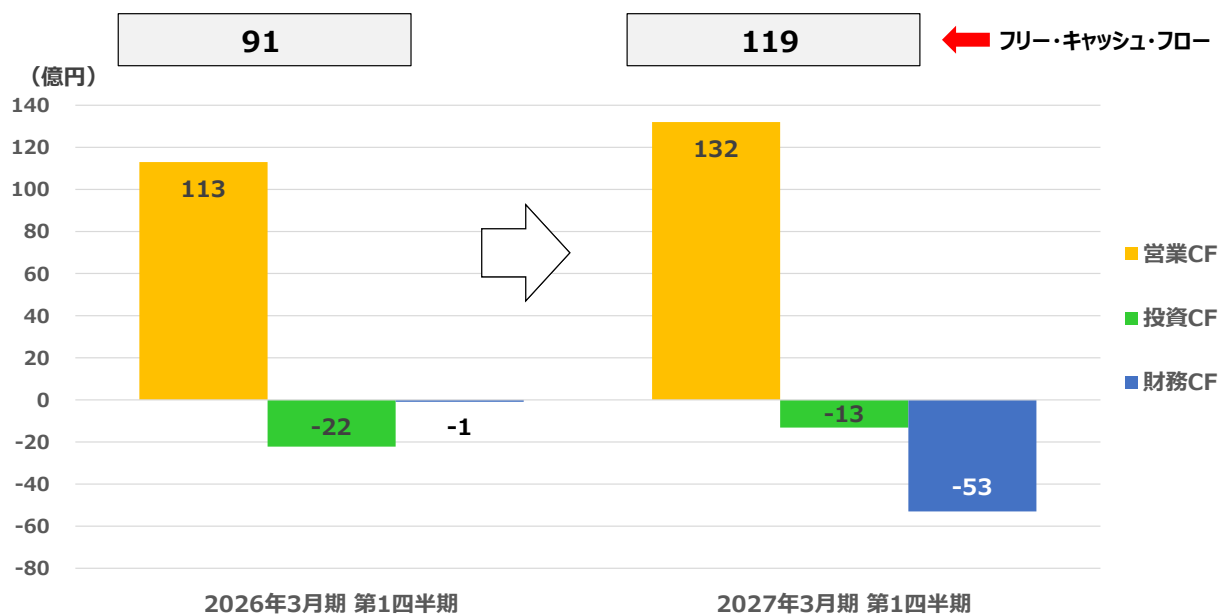
販管費の増加

国内の人件費の増加、また、海外の販管費が円安の影響で営業利益が39億円押し下げられる

2027年3月期 第1四半期 キャッシュ・フロー

[IFRS]

GLORY



前年同期を上回る営業CFを創出、自己株取得の増加等から財務CFは減少

決算ダイジェスト

FY2026 1Q業績及びFY2026予想

データセクション

13

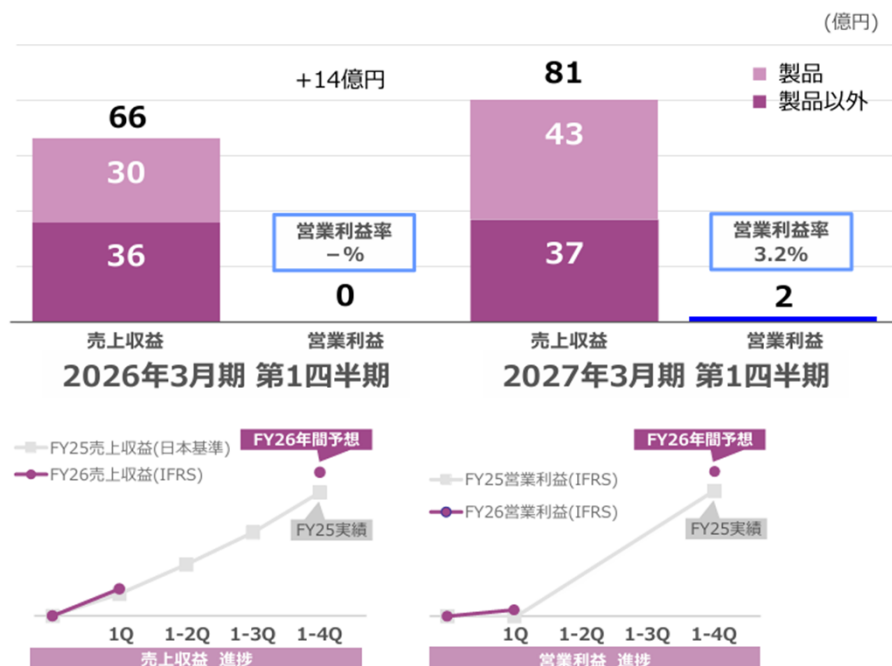
「キャッシュ・フロー」

営業キャッシュ・フローの増加

昨年度末非常に販売が好調であったことや、売掛金の早期回収などもあり、営業キャッシュ・フローが増加
この結果、フリー・キャッシュ・フローは119億円

財務キャッシュ・フローの減少

自己株式取得が増加したこと等



- 前年同期との増減要因**
- 売上収益**
 新紙幣発行に関する特別需要の反動減から需要が回復基調。主要製品のオープン出納システムや窓口用紙幣硬貨入出金機の販売増加等により増収。
 - 営業利益**
 主要製品の売上収益の増加により、増益。

決算ダイジェスト

FY2026 1Q業績及びFY2026予想

データセクション

14

「金融市場」

・売上収益 81億円（前年同期比+14億円）

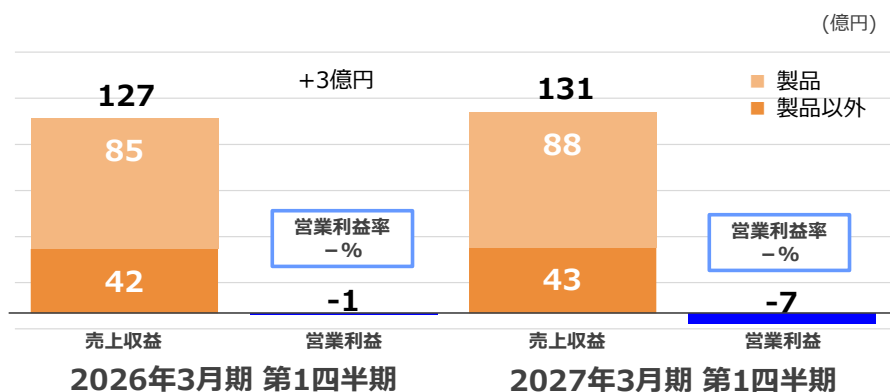
・営業利益 2億円（前年同期比+2億円）

昨年度は、新紙幣発行に対する特別需要の剥落があったが、今期は需要が順調に回復し、主要製品のオープン出納システムや窓口用紙幣硬貨入出金機の販売が増加。売上収益の増加に伴い営業利益も増加

（画面左下のグラフ）

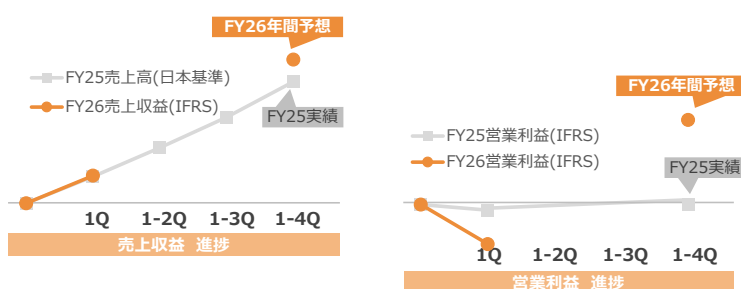
今期の年間予想に向けて、各四半期の実績がどのように伸びていくかを示したグラフ。

セグメント色はFY2026実績。グレーはFY2025実績。IFRS適用により第1四半期実績と通期予想の数値のみ開示。前期は遡及適応。売上収益は会計基準により大きな影響がないためFY2025のみ日本会計基準値をグラフ化。



前年同期との増減要因

- 売上収益**
 市場の需要は旺盛であるものの、部材調達難により販売の一部が延伸したことから、主要製品のレジつり銭機や入金機は微増にとどまった。
- 営業利益**
 人件費等が増加したが、上記の通り売上収益が微増にとどまったため営業損失が拡大した。



決算ダイジェスト

FY2026 1Q業績及びFY2026予想

データセクション

15

「流通・交通市場」

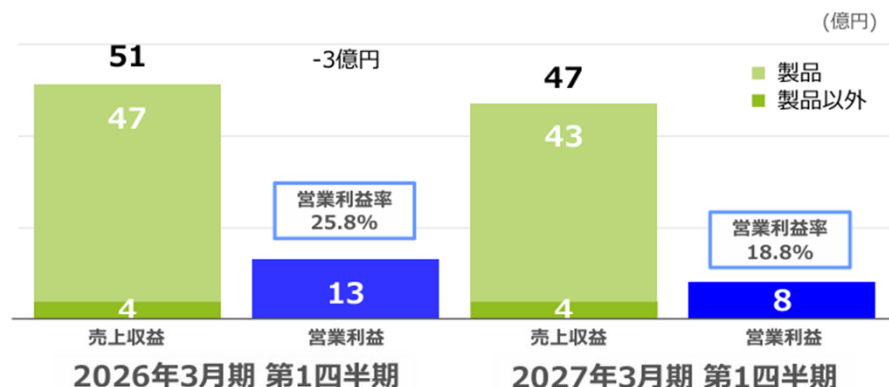
・売上収益 131億円（前年同期比+3億円）

・営業損益 -7億円（前年同期比-6億円）

市場の需要は旺盛であったが、部材調達難などの影響から、販売の一部遅延が発生。

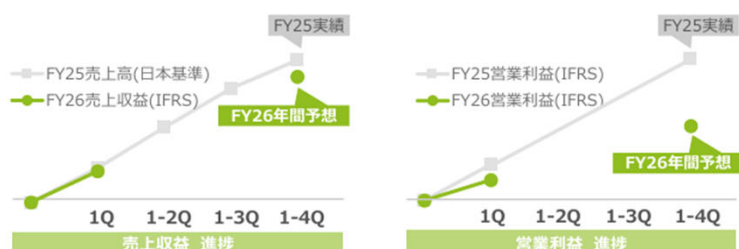
主要製品のレジつり銭機や入金機の販売が3億円の微増にとどまる。

販売影響や人件費の増加などの影響により、営業利益が前年同期比で減少。



前年同期との増減要因

- ・ **売上収益**
スマート遊技機の導入ペースが鈍化し、主要製品のカードシステムの販売が減少。
- ・ **営業利益**
売上収益の減少に伴い減少。



「遊技市場」

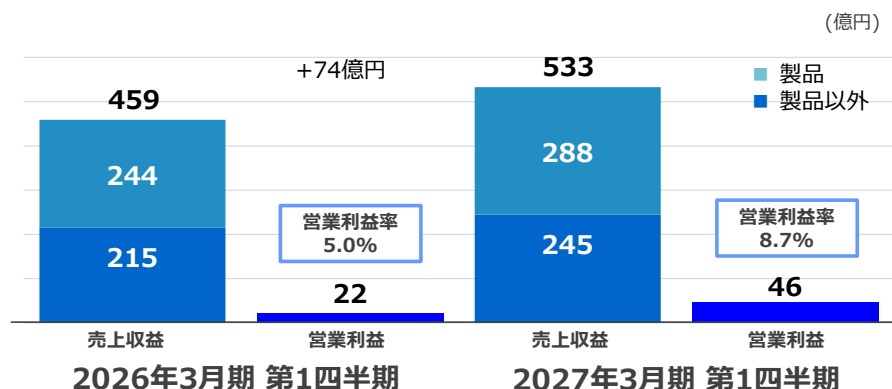
・売上収益 47億円（前年同期比－3億円）

・営業利益 8億円（前年同期比－5億円）

スマート遊技機の導入ペースが鈍化。

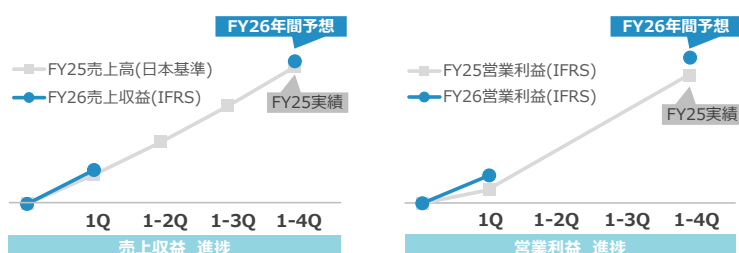
主要製品のカードシステムの販売が前年同期比で減少。

これに伴い営業利益も減少。



前年同期との増減要因

- 売上収益**
 74億円の増収。うち円安による影響は概算45億円。
 全般的に需要も旺盛で売上収益は堅調。
- 営業利益**
 米国での保守内製化等の効果。



「海外市場」

・売上収益 533億円（前年同期比+74億円）

・営業利益 46億円（前年同期比+23億円）

全般的に市場の需要は旺盛で売上収益が増加（円安影響+45億円）

営業利益は、売上収益の伸びの効果に加え、米国における保守事業の内製化が寄与

ECB ユーロプロジェクト

(主要プロジェクト：デジタルユーロの導入計画と並行して、ユーロ紙幣を全面刷新)

2026年7月23日、ECBは新紙幣デザイン候補10案を公開し、市民投票を開始

欧州は現金を使い続ける姿勢



よって、現金インフラ更新は続く。
2029年頃から改刷特需を見込む。
段階的に発行されるため、数年間続く可能性。



「海外市場トピックス」

7月23日 欧州中央銀行（ECB）が、ユーロ紙幣の新しいデザイン候補を発表し、市民投票を開始

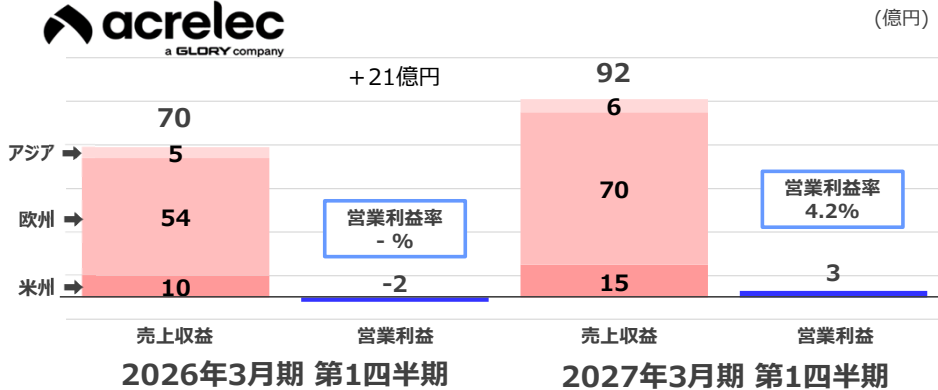
新デザイン案は、バートーベンやレオナルドダヴィンチなど歴史上の著名人や、鳥などのデザイン

この動きから伺えることは、欧州はデジタル通貨も検討しているものの、並行して現金を使い続ける意図を持っていること。

従って、現金を扱うインフラの更新は続いて行くものと推察。

この新紙幣発行による需要は、2029年ごろから出てくるのではないかと予想。

欧州では、日本と異なり、紙幣は額面ごとに順次発行されると見込まれるため、このような需要が最長で10年ほど続くことが考えられる。

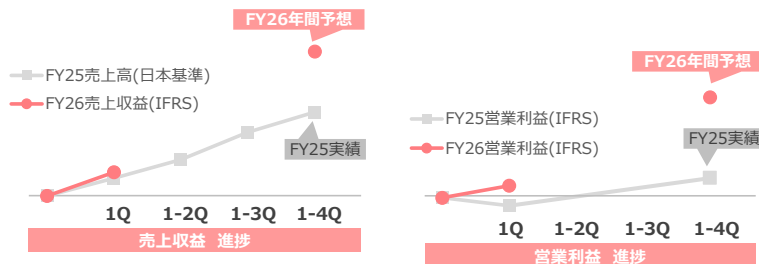


前年同期との増減要因

- ・ **売上収益**
自動化・省人化ニーズが継続し、各地域での販売が増加。
- ・ **営業利益**
売上収益の増加、及びコスト改善により、黒字化。

トピックス

- ・ **アジアでの新規顧客獲得**
シンガポールの大手スーパーにAcrelecとGLORYが共同開発した「C27」を販売。



「海外市場 アクレック」

- ・ **売上収益 92億円** (前年同期比+21億円)
- ・ **営業利益 3億円** (前年同期比+5億円)

市場の自動化・省人化のニーズは継続。アクレック社においても、前年同期比で各地の販売が増加
営業利益は、売上の増加に伴い、また、内部の開発の効率化等に努めコストを削減した結果、黒字化

(トピックス)

画面の右下の画像は、アジアでアクレックが新規顧客を獲得したという話題。

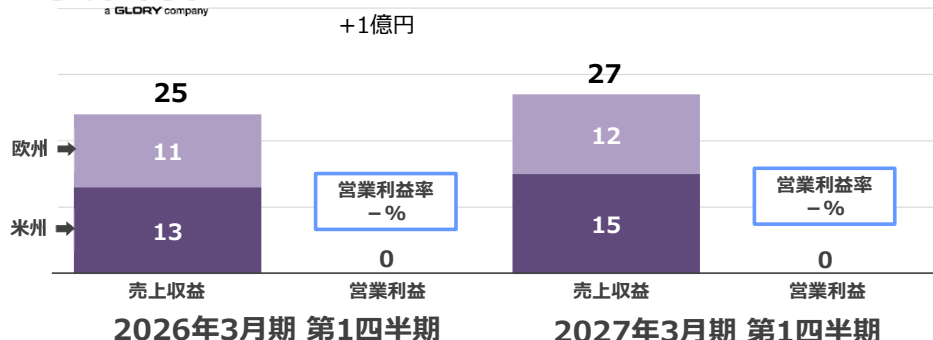
シンガポールの大手のスーパーに対して、アクレック社とグローリーが共同して開発した製品「C27」を販売。

2027年3月期 第1四半期 フルイド 実績

[IFRS]

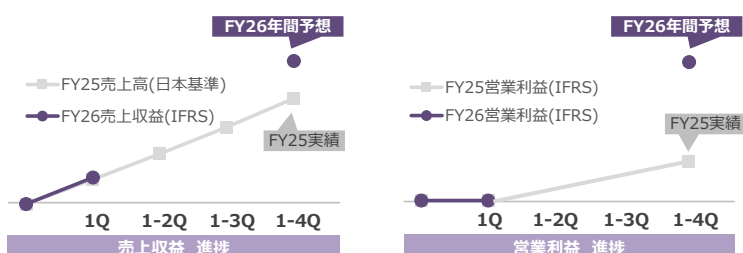
GLORY

floodid
a GLORY company



前年同期との増減要因

- 売上収益**
 米国での通商政策による顧客の投資抑制等により新規顧客の獲得が遅延している状況が続いている。
- 営業利益**
 開発投資や営業体制強化の影響が続き、ブレイクイーブンが続く。



決算ダイジェスト

FY2026 1Q業績及びFY2026予想

データセクション

20

「海外市場 フルイド」

・売上収益 27億円（前年同期比+2億円）

・営業利益 0億円（前年同期比±0億円）

昨年度から続く米国の情勢の不透明さなどから、お客様が投資判断を延伸したことにより、新規顧客の獲得が伸び悩む状況が続く。

このような状況から、売上収益はほとんど横ばい、営業利益もブレイクイーブンの状況が続く

2027年3月期 第1四半期 海外市場 実績

[IFRS]

GLORY

億円	第1四半期		前年同期比		米ドルベース
	2026年3月期	2027年3月期			
米州	208	213	+4	2.1%	-7.4%
内 GGS	184	182	-1	-0.9%	-10.2%
内 Acrelec	10	15	+4	42.7%	+29.4%
内 Flooid	13	15	+1	10.9%	+0.5%
欧州	214	272	+58	27.1%	+15.3%
内 GGS	100	133	+32	32.6%	+20.2%
内 Sitrade	47	56	+8	18.6%	+7.5%
内 Acrelec	54	70	+16	29.4%	+17.3%
内 Flooid	11	12	0	4.3%	-5.4%
アジア	36	47	+11	31.6%	+19.3%
内 GGS	30	41	+10	34.9%	+21.7%
内 Acrelec	5	6	0	17.0%	+6.0%
合計	459	533	+74	16.1%	+5.3%
内 GGS	315	357	+41	13.7%	+2.6%
内 Sitrade	47	56	+8	18.6%	+7.5%
内 Acrelec	70	92	+21	30.4%	+18.2%
内 Flooid	25	27	+1	7.9%	-2.2%
為替 レート	ドル	145 円	160 円	15 円の円安	
	ユーロ	164 円	185 円	21 円の円安	

* 大口案件の反動

決算ダイジェスト

FY2026 1Q業績及びFY2026予想

データセクション

21

「海外市場 実績」

海外セグメントの中の地域別および法人別の売上収益

米州：大口案件の反動があり前年同期比でマイナス

欧州：リテールの需要更新が非常に旺盛で販売は順調

アジア：金融機関向けの販売が順調

私からのご説明は以上でございます。

3 データセクション

通期業績予想は修正していません。
資料につきましては、2026年3月期 通期決算発表時のものを再掲しています。

「データセクション」

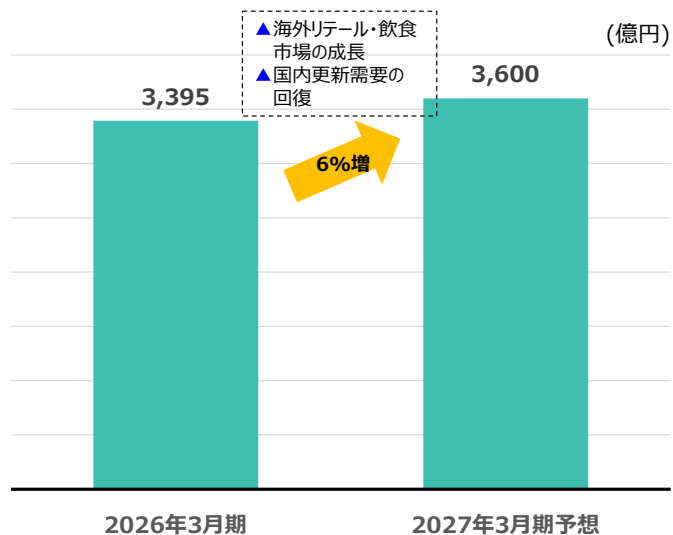
今期通期の見通しは、変更していないことから、
2026年3月期通期決算発表時に掲載したものを再掲
説明は割愛

2027年3月期 通期 連結概要

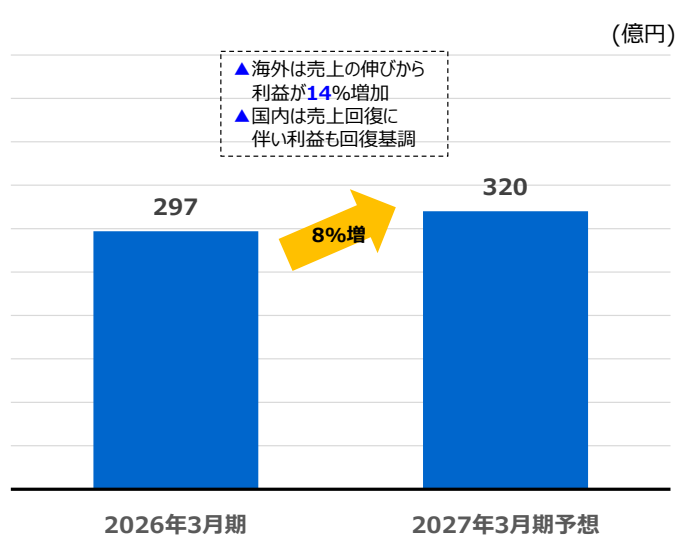
[IFRS]

GLORY

売上収益



営業利益

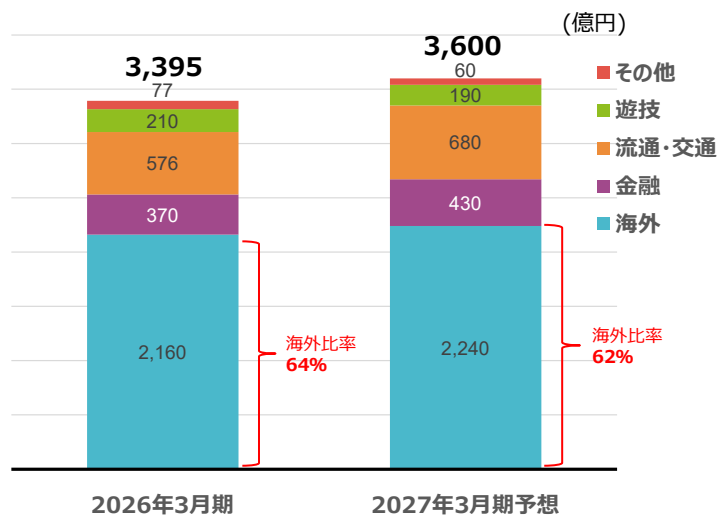


2027年3月期 通期 セグメント別貢献度

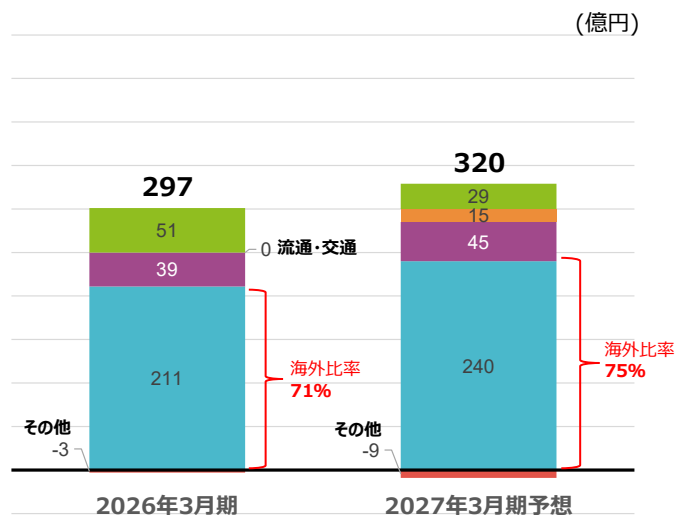
[IFRS]

GLORY

売上収益



営業利益



国内の新紙幣関連需要の期間を終え、**海外の貢献度が増加傾向に**

3期分 P&L

[IFRS]



億円	2025年3月期		2026年3月期				2027年3月期			
	実績	売上収益 比率	実績	売上収益 比率	前期比		予想	売上収益 比率	前期比	
					増減額	増減率			増減額	増減率
売上収益	3,686	100.0%	3,395	100.0%	-291	-7.9%	3,600	100.0%	+205	+6.0%
営業利益	420	11.4%	297	8.8%	-123	-29.3%	320	8.9%	+23	+7.6%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	245	6.6%	153	4.5%	-92	-37.6%	200	5.6%	+47	+30.0%

為替 レート	米ドル	153 円	151 円	150 円
	ユーロ	164 円	175 円	170 円

3期分 セグメント別

[IFRS]

GLORY

億円		2025年3月期		2026年3月期				2027年3月期			
		実績	売上構成比率	実績	売上構成比率	前期比		予想	売上構成比率	前期比	
			営業利益率		営業利益率	増減額	増減率		営業利益率	増減額	増減率
海外市場	売上収益	2,100	57.0%	2,160	63.6%	+60	+2.9%	2,240	62.2%	+80	+3.7%
	営業利益	180	8.6%	211	9.8%	+31	+17.2%	240	10.7%	+29	+13.7%
金融市場	売上収益	544	14.8%	370	10.9%	-174	-32.0%	430	11.9%	+60	+16.2%
	営業利益	78	14.5%	39	10.5%	-39	-50.0%	45	10.5%	+6	+15.4%
流通・交通市場	売上収益	697	18.9%	576	17.0%	-121	-17.4%	680	18.9%	+104	+18.1%
	営業利益	87	12.5%	0	-	-87	-	15	2.2%	+15	-
遊技市場	売上収益	277	7.5%	210	6.2%	-67	-24.2%	190	5.3%	-20	-9.5%
	営業利益	77	27.9%	51	24.3%	-26	-33.8%	29	15.3%	-22	-43.1%
その他	売上収益	70	1.9%	77	2.3%	+7	+10.0%	60	1.7%	-17	-22.1%
	営業利益	-3	-	-3	-	0	-	-9	-	-6	-
合 計	売上収益	3,686	100.0%	3,395	100.0%	-291	-7.9%	3,600	100.0%	+205	+6.0%
	営業利益	420	11.4%	297	8.8%	-123	-29.3%	320	8.9%	+23	+7.7%
為替レート	ドル	153 円		151 円		2 円の円高		150 円		1 円の円高	
	ユーロ	164 円		175 円		11 円の円安		170 円		5 円の円高	

決算ダイジェスト

FY2026 1Q業績及びFY2026予想

データセクション

26

海外地域別売上収益

[IFRS]

GLORY

億円	通 期								
	2025年3月期	2026年3月期	前期比		米ドルベース 増減率	2027年3月期 予想	前期比		米ドルベース 増減率
			増減額	増減率			増減額	増減率	
米州	1,008	989	-19	-1.9%	-0.7%	1,030	+41	+4.1%	+4.6%
内 GGS	875	889	+14	+1.6%	+2.8%	885	-4	-0.4%	+0.1%
内 Acrelec	63	51	-12	-19.0%	-17.9%	70	+19	+37.3%	+37.1%
内 Flooid	70	49	-21	-30.0%	-28.4%	75	+26	+53.1%	+50.9%
欧州	900	1,000	+100	+11.1%	+12.5%	1,030	+30	+3.0%	+3.5%
内 GGS	453	487	+34	+7.5%	+8.8%	510	+23	+4.7%	+5.5%
内 Sitrade	166	200	+34	+20.5%	+22.2%	180	-20	-10.0%	-9.9%
内 Acrelec	231	256	+25	+10.8%	+12.1%	270	+14	+5.5%	+5.9%
内 Flooid	50	57	+7	+14.0%	+15.6%	70	+13	+22.8%	+21.8%
アジア	191	170	-21	-11.0%	-10.0%	180	+10	+5.9%	+6.2%
内 GGS	154	151	-3	-1.9%	-1.3%	155	+4	+2.6%	+3.6%
内 Acrelec	37	19	-18	-48.6%	-45.9%	25	+6	+31.6%	+25.9%
合 計	2,100	2,160	+60	+2.9%	+4.1%	2,240	+80	+3.7%	+4.2%
内 GGS	1,481	1,526	+45	+3.0%	+4.2%	1,550	+24	+1.6%	+2.2%
内 Sitrade	166	200	+34	+20.5%	+22.2%	180	-20	-10.0%	-9.9%
内 Acrelec	332	327	-5	-1.5%	-0.1%	365	+38	+11.6%	+12.0%
内 Flooid	121	107	-14	-11.6%	-10.1%	145	+38	+35.5%	+35.3%
実績為替 レート	ドル	153 円	151 円	2 円の円高	計画為替 レート	ドル	150 円	1 円の円高	
	ユーロ	164 円	175 円	11 円の円安		ユーロ	170 円	5 円の円高	

決算ダイジェスト

FY2026 1Q業績及びFY2026予想

データセクション

27